

ENCYCLOPAEDIA JUPITER



世界文化大百科事典

ENCYCLOPAEDIA JUPITER

7

センターテハレ



世界文化社



世界文化大百科事典 《ジュピター》

7

セット商品につき分冊販売不可

発行所 株式会社世界文化社
東京都千代田区九段北4-2-29
Tel(262)5111(代表) 〒102

発行者 鈴木 勤
編集 株式会社世界文化社
株式会社
日本アートセンター

印刷 株式会社東京印書館
製本 中央精版印刷株式会社
製函 文京紙器株式会社
用紙 神崎製紙株式会社
王子製紙株式会社
駿河製紙株式会社

表紙 ダイニック株式会社

凡 例

この《世界文化大百科事典 ジュピター》は、現代生活のあらゆる分野にわたって必要な項目約70,000を収録した。そして、項目の解説は、その記述内容が的確・敏速に把握できるよう、つとめて簡明・平易なものとしたが、各分野の基本的事項や現代社会における重要問題については特に約300の〈特別大項目〉を設け、一般項目との関連を保ちながら歴史的・体系的に解説し、総括的な理解が得られるようにしてある。また、カラー版による写真・図版約16,000点を全ページにわたって掲載し、内容の端的な理解に役だつようにした。

項目の見出し

- 1 各ページに収録されている項目を、そのページの上方欄外に示してある。偶数ページには最初の項目、奇数ページには最後の項目の、それぞれ第4音節めまでをかたかなで示した。ただし、促音〈っ〉・拗音〈ゃ〉〈ゅ〉〈ょ〉などの小字および濁音・半濁音は正音で示し、長音〈ー〉は除いた。

東 京→トウキヨ
ヨーロッパ→ヨロツハ

- 2 項目の見出しは、〈かな見出し〉と〈本見出し〉とを示した。

かな見出し 本見出し
げんじものがたり 【源氏物語】
エヌエイチケー 【NHK】
インキ 【ink】

- 1) 国語読みおよびそれに準ずるものは、現代かなづかいによってひらがなの太字で示した。ただし、現代かなづかいの理解のうえで困難が予想される一部のものについては、〈見よ項目〉を立てて検索の便を図った。

ぬまず 【沼津】⇒ぬまづ

- 2) 外国語・外来語はかたかなの太字で示した。長音は〈ー〉で示し、〈ヴァ〉〈ヴィ〉〈ヴ〉〈ヴェ〉〈ヴォ〉〈ヂ〉〈ヅ〉は用いない。

ベートーベン (ベートーヴェンとはしない)
ベネチア (ヴェネチアとはしない)

ただし、外来語の意識が薄れて国語化されたものはひらがなで示した。

らしゃ 【羅紗】
らっぱ 【喇叭】

- 3) 地名で、日本の行政区画および外国の国名・地域名、山・川・湖・砂漠などの名称のかな見出しは、検索の便を図って関連する項目を近くに集めるために固有名詞部分のみを示した。

おおさか 【大阪(府)】

おおさか 【大阪(市)】

ミシシッピ(州)

ミシシッピ(川)

- 4) 中国・朝鮮の地名・人名は、原則として日本で慣用されている国語読みで示し、現地読みを本見出しのあとに併記した。

かほくしょう 【河北省】 ホーベイ省

ふざん 【釜山】 プサン

もうたくとう 【毛沢東】 マオツォートン

ただし、国内で現地読みが慣用されているものおよび国際慣用語のものはそれに従った。

シャンハイ 【上海】

ペキン 【北京】

メイランファン 【梅蘭芳】

- 5) 本見出しでは、かな見出しのひらがなの部分を代表的な漢字または漢字かな混じりで示し、外国語・外来語は原語のつづりを示した。

いれずみ 【入れ墨】 刺青・文身とも書く。

ウイスキー 【whisky】

ただし、原語のつづりでイタリック体は、植物を属名として取り上げた場合を示す。

アロエ 【Aloe】

項目の配列

- 1 かな見出しの五十音順に配列し、清音→濁音→半濁音の順とした。

{ しんくう 【真空】
しんぐう 【新宮(市)】
じんぐう 【神宮】
はい 【肺】
ばい 【蝨】
パイ 【pie】

- 2 促音・拗音などの小字は直音より前に配列した。

{ じゅう 【銃】
じゅう 【自由】

- 3 長音の〈ー〉は音順から除外したが、同格の場合は長音のあるほうをあとにした。

あへん【阿片】
アーヘン【Aachen】

- 4 同音のものは次の順とした。

- a) 見よ項目→解説のある項目

あか【赤】⇒色
あか【垢】

- b) 普通名詞→固有名詞

じゅんし【殉死】
じゅんし【荀子】

- c) 固有名詞では地名→人名

- d) 町名などで同音の場合は北から南への順

- e) 人名などで同音の場合は生年の早い順

- 4 生物の科名・種名および岩石・鉱物・元素・化合物などのうち、教科書・専門書でかたかなの表記が慣用になっているものは、それになった。ただし、生活語として成語化されている語はかたかなの表記を用いない。

- 5 年代は、原則として西暦で示した。ただし、国内に関する記述の場合は、その項目の初出の箇所に年号を併記した。

- 6 外国地名の表記は、原則として文部省編《地名の呼び方と書き方》によった。人名も地名に準じた。

- 7 外国語・外来語の表記については、〈項目の見出し〉に準じた。

人口統計の数値

- 1 日本の都道府県市町村の人口は、自治省行政局編《昭和55年版住民基本台帳に基づく全国人口世帯数表》によった。ただし、10,000以上の場合は100の位で、10,000以下の場合は10の位で四捨五入した。

- 2 都道府県市の産業三大別人口比（農林水産業などの第1次産業、鉱業・建設業・製造業などの第2次産業、商業・金融業・運輸業・サービス業などの第3次産業の人口の割合）は、総理府統計局編《昭和50年国勢調査報告》によった。

- 3 外国およびその地域・主要都市の人口は、主として国際連合編《人口統計年鑑1976年版》によったが、他の資料によって補ったところも多い。

地図

- 1 日本の都道府県と8地方、世界の独立国と6大州には多色刷り地図を設け、また日本の大都市や国立公園などには観光の便などを図って考案した地図が設けてある。

- 2 地図の記号は一般の地図記号に準じているが、都市記号の人口による段階は各図に凡例がつけてある。

- 3 都道府県と独立国の地図の地貌表現は、等高線段彩で示した。しかし、全貌をとらえやすくするために等高線示度を図によって変えてあり、その数値は各図中の等高線の上に記入してある。

- 4 地図中の地名の表記は、本文の地名表記の基準に従っ

特別大項目

〈特別大項目〉はページを改め、各ページの上下にけい線を入れて一般項目と区別した。したがって、五十音順による項目配列の当該の位置には、その特別大項目のあるページ数を示した。

大項目の例

うちゅう

宇宙

すべての天体とそれを含む全空間、いいかえれば物質・エネルギーが存在する……

用字用語

- 1 かなづかいには、歴史的かなづかいで示す必要のある場合を除き、すべて現代かなづかいを用いた。
- 2 送りがなは、原則として《送りがなのつけ方》(1959年内閣告示)によった。
- 3 漢字は、原則として《当用漢字音訓表》の範囲で用いた。ただし、固有名詞・歴史的用語・術語などは当用漢字以外のものも用い、()の中にその読み方をひらがなで示した。

た。

符号・記号

解説文中に用いた、おもな符号・記号は次のとおりである。

⇒ 指示した項目にこの項目の解説があることを示す。

かんさいべん 【関西弁】 ⇒ 方言

しょせき 【書籍】 ⇒ 図書

サイン ⇒ 正弦

ジンフィズ ⇒ カクテル

→ 解説文中または末尾につけて、参照・関連項目を示す。

抽象主義(⇒アブストラクト-アート)は、
従来の漢方(⇒東洋医学)を背景としたもの

あいろ 【藍色】 ……(解説)……。→ 色

* 解説文中の用語の右肩につけて、その語が項目として別に立てられていることを示す。

あんざんかん 【安山岩】 中性の火山岩^{*}。

いほうじん 【異邦人】 カミュ^{*}の小説。

【】〈〉 解説文中に中見出し・小見出しを施し、解説内容の整理を図ったことを示す。

アイヌの場合

【名称・歴史】

【生活】

【衣食】

【住居】

【風俗習慣】

【音楽】

貨幣の場合

【種類】

【制度】

【歴史】〈西洋〉〈中国〉〈日本〉

〈〉 引用文または強調する語であることを示す。

日本国憲法第9条に〈日本国民は、正義と ……

戦没者の塔や〈ひめゆりの塔〉などがあり、 ……

《》 書名・曲名・題名を示す。

《日本書紀》

《カルメン》

() 語句の言い替え・補足説明や、年号の併記などを示す。

す。

病変米(黄変米)

燃料ガス(都市ガス)

慶長年間(1596～1614)

1872年(明治5)

() 読みがなであることを示す。

石川啄木(たくはく)

伊豆(いず)半島

香港(ホンコン)

科学記号・略符号

本事典では、次の範囲で単位記号・略符号を用いた。ただし、必要に応じてこれら以外のものも用いた。

mμ	ミリミクロン	cal	カロリー
μ	ミクロン	Cal	大カロリー(栄養学で)
mm	ミリメートル	℃	セ氏温度
cm	センチメートル	°K	絶対温度
m	メートル	A	アンペア
km	キロメートル	V	ボルト
cm ²	平方センチメートル	W	ワット
m ²	平方メートル	kW	キロワット
km ²	平方キロメートル	kWh	キロワット時
cm ³	立方センチメートル	km/秒(分, 時)	速さ
m ³	立方メートル	%	パーセント
cc	1/1000リットル	‰	パーミル
ml	ミリリットル	ppm	ビービーエム
l	リットル	mmHg	水銀柱ミリメートル
g	グラム	pH	ビーエイチ
kg	キログラム	° ' "	度・分・秒(角度・緯度・経度)
t	トン		

特別大項目目次 第7巻

臓器移植	34 (ページ)	東京大学助手	三島好雄
疎外	63	早稲田大学助教授	佐藤慶幸
大学	110	専修大学教授	佐藤英一郎
大航海時代	122	青山学院大学教授	保坂栄一
大衆社会	130	立正大学教授	新明正道
大脳	154	元東北大学学長	本川弘一
台風	158	気象研究所予報研究部長	曲田光夫
煙草	238	日本専売公社総務理事	高村健一郎
地域開発	288	東京女子大学教授	伊藤善一
地球	302	九州大学教授	片山信夫
地方自治	340	国学院大学教授	高木鉦作
茶道	350	国学院大学教授	桑田忠親
中国革命	371	中国文学者	今村与志雄
中国哲学	376	一橋大学教授	西順蔵
中国文学	378	中国文学者	今村与志雄
中小企業	382	青山学院大学教授	原豊
賃金	444	明治大学教授	田辺照子
月	457	九州大学教授	片山信夫
釣り	484	東京大学教授	守山史生
庭園	498	魚拓研究家	清水游谷
デザイン	524	芝浦工業大学講師	重森完途
データ通信	528	武蔵野美術大学講師	武井邦彦
		早稲田大学助教授	富永英義

せんだい

せんだい 【仙台(市)】 宮城県^{*}の中央部に位置する市で、県庁の所在地。人口63万6,000。奈良時代には北東郊に多賀城が築かれ、陸奥(むつ)の国府と蝦夷(えぞ)征伐のための鎮守府が置かれた際、現在の市域南東部の木ノ下^{*}に国分寺・国分尼寺が建立(にんりゅう)された。戦国時代までは青葉山丘陵の東方宮城野(みやぎの)から太平洋岸に至るまで荒涼とした原野で、千体観音があったために〈千代〉とよばれていたという。1600年(慶長5)、北方の岩出山から青葉山丘陵東端に居城を移した伊達政宗(だてまさむね)は地名を仙台と改め、広瀬川を隔てる東の段丘上に武士や町人を移住させた。江戸時代を通じて伊達氏六十二万石の城下町、陸羽街道の宿場町・市場町として栄え、18世紀初期には人口56,000に達し、金沢・名古屋・福岡と並ぶ大都市となった。明治以後は旧制第2高等学校・仙台医学専門学校(いずれもいまの東北大学)など、多数の学校施設をもつ学都となり、また陸軍第2師団司令部が置かれる軍都でもあった。1889年(明治22)市制施行、その後周辺部の町村を合併して、東北地方第1、全国第14位の都市となった。

市域は、南から西へかけて100〜160mの平坦(へいたん)な青葉山丘陵が走り、それを切って南東流する広瀬川が東岸に数段の広い段丘を形成する。北部には北に傾く30〜80mの七北田(なきた)丘陵があり、梅田川が段丘群の北部を東流する。段丘群の東部には宮城野原があり、広瀬川が名取川と合流する海岸部は仙台平野の南部にあたる沖積地(ちゅうせきち)で、名取川・七北田川が自然堤防をつくる。仙台湾に臨む砂浜には低い浜堤列が連なり、その背後に伊達政宗がつくった内陸運河貞山堀(ていざんぼり)がある。中心市街は広瀬川流域の段丘上に発展し、第2次世界大戦の戦災によって大半が焼失したが、戦後の区画整理によって50m・35m幅の道路網が整備され、高層ビルの立ち並ぶ近代都市に生まれ変わった。戦災を受けなかった周辺部には古い町屋の形や武家屋敷の門などが残り、樹木も多く、〈杜(もり)の都〉とよばれた昔のおもかげを残している。産業三大別人口比は3:23:74で消費都市的な性格が強く、東一番丁付近に中心商店街がある。その周辺には県庁や中央官庁の出先機関が集まる官庁街があり、銀行や会社の支店も多い。東北大学・宮城教育大学・東北学院大学・東北工業大学などがあり、天文台・図書館・動物園・レジャーセンターなどの文化施設にも恵まれている。住宅地区は最近北部や南西部の丘陵に延び、東部の水田地帯や名取川沿岸には市営・県営の

住宅地が飛び地状につくられている。近代工業は南部の長町地区や北東部の小田原地区に金属・ゴム・ビール・乳製品などの工場地区があるにすぎなかったが、1964年(昭和39)仙台湾新産業都市の指定以後、その中心地区となり、東部に仙台工業港が建設され、工業用地の造成や工場誘致が急速に進んでいる。また、江戸時代以来の伝統をもつ特産物に仙台平^{*}、西郊に産する亜炭を材料とする埋木(うもれぎ)細工^{*}、堆糸(ついで)があるが、仙台平は袴地(はかまじ)の需要が減少してネクタイに代わっている。

東北本線・仙山線・仙石線が東京・青森・山形・石巻(いしのまき)の各地に通じ、国道4号線・同バイパス・45号線・47号線・48号線が集まる。青葉山丘陵は市の観光の中心地で、青葉城跡からは市街が一望に収められ、ここには伊達政宗の騎馬像や土井晩翠(ばんすい)の《荒城の月》の詩碑がある。北山丘陵には大崎八幡(はちまん)神社(国宝)、政宗を祭る青葉神社、東照宮(重要文化財)がある。そのほか榴ヶ岡(つじがおか)公園のサクラ、林子平・支倉(はくら)常長や、歌舞伎(かぶき)《伽羅先代萩(めいぼくせんたいはぎ)》で知られる烈女政岡(まさおか)の墓所など、名所・旧跡が多い。また、松島・蔵王(ざおう)の観光基地となり、秋保(あきう)・作並などの温泉も近い。年中行事の〈七夕(たなばた)祭〉(8月6〜8日)は豪華な催しとして知られる。特産に仙台みそがある。

〔浅井得一〕

せんだい 【川内(市)】 鹿児島県中西部の市。人口63,000。古くは薩摩(さつま)の国府が置かれ、江戸時代には島津氏の出城が置かれたが、明治以後は農業および農産加工の小工業が主体であった。第2次世界大戦中に戦災を受けて市域の大半を焼失したが戦後の復興はめざましく、最近では工業都市への転換が行なわれている。1940年(昭和15)市制施行。市域は川内平野の中心部を占め、川内川^{*}の下流域一帯の沖積地(ちゅうせきち)を含む。産業三大別人口比は30:24:46。平野部の薩摩米をはじめ、サツマイモ・野菜類、山間部の木材・タケなどを集散し、しょうちゅう・げた・竹製品などの製造工業が行なわれ、タバコ・畳表の特産がある。

また、最近では近代工業も盛んで、1954年に建設された中越パルプの大工場をはじめ、化学繊維・化学肥料・セメントなどの工場が集まり、川内川河口港の建設も進み、原子力発電所の誘致も決定している。鹿児島本線から宮之城(みやのじょう)線を分岐し、国道3号線・267号線が集まる。737年(天平9)建立(にんりゅう)の国分寺塔跡は史跡に指定されている。

せんだいかわ 【川内川】 宮崎県と熊本県との境付近の九州山地から発し、西南流して鹿児島県北部を通り天草灘(あまくさなだ)に注ぐ。流程137km。上流に大口盆地、中流に宮之城盆地、下流に川内平野が開け、流域は南九州における主要な農業地帯の一つとなっている。上流の鶴田(つるた)ダムは多目的ダムで、この川の治水に役だつとともに、最大出力12kWの発電所が建設されている。下流は川魚の産地で、また水郷で舟を浮かべる行楽客が多い。〔長津一郎〕

せんだいきん 【銭大听】 ⇒恵棟(けいとう)

せんだいくじほんぎ 【先代旧事本紀】

⇒旧事本紀

せんたいしゆぎ 【全体主義】 国家目的を実現するため国民を総動員しようとする思想ないしは体制。個人の自由や幸福よりも国家全体の目的や利益を優先させる考えがその基調となる。したがって、個人主義・自由主義・民主主義とはあいられない。その特徴は、民族共同体などを唱えて国民の一体性を強調し、国民に国家への犠牲的献身を要求し、排外的な愛国心を鼓吹することにある。ドイツのナチズム、イタリアのファシズムなどは全体主義の代表的なものとされ、かつて日本にみられた超国家主義(→ウルトラ・ナショナリズム)も同様に考えられる。社会主義は個人主義や自由主義を否定する点では全体主義と現象的には類似しているが、社会主義は階級の廃絶を目標としており、階級支配を貫徹しようとするところに立脚している全体主義とは、根本的に異なっている。→ファシズム

〔西尾孝司〕

せんだいはぎ 【先代萩】 ⇒伽羅先代萩(めいぼくせんたいはぎ)



仙台市 仙台駅の上空から西を望んだ市の中心街。中景の緑の森は青葉山丘陵で、ここに青葉城や東北大学などがある

せんだいはぎ 【千代萩】 双子葉植物・マメ科。寒地の海岸に自生する多年草。茎は直立し高さ60～70cmに達する。葉は3小葉からなる複葉で、各小葉は卵円形で裏面に毛がある。葉とはほぼ同形の托葉(たくよう)がある。春、茎の先に黄色の蝶形花(ちようけいか)を多数穂状につける。豆果は扁平(へんぺい)な線形で、中にかっ色の種子がある。

せんだいはん 【仙台藩】 江戸時代に陸奥(むつ)(宮城県)仙台地方を領有した伊達(だて)氏の藩。伊達藩ともいう。外様(とさま)大名の雄で、居城は仙台城(青葉城)。伊達氏は藤原氏の出といひ、朝宗(ともむね)が源頼朝(よりとも)の奥州征伐に功を立て陸奥国伊達郡を与えられ、以後伊達氏を称した。藩祖政宗(まさむね)のとき領国を拡大し、豊田秀吉(よとみひでし)に従い、次いで徳川氏に属し、仙台城を築き、1603年(慶長8)これに移って仙台藩を確立し、以後継承して幕末まで続いた。政宗の代に支倉(せくら)常長がローマに派遣されたことは有名。3代綱宗の代には伊達騒動(さわどう)が起こったが、その危機を乗り越えて藩制は整備され、加賀・薩摩(さつま)藩に次ぐ大藩として、表高は六十二万石であったが内高は百万石を越えていた。戊辰(ぼしん)戦争のとき奥羽越列藩同盟に加わり官軍に対抗したため、二十八万石に削封された。1871年(明治4)廃藩置県により仙台県となり、翌年宮城県と改称された。

〔岡山泰四〕

せんだいはら 【仙台平】 宮城県仙台地方に産出される高級袴地(はかまじ)。1711年(正徳1),仙台に招かれた西陣の織工小松弥右衛門(やえもん)の織り出した袴地が起源とされている。仙台平は、正しくは精好仙台平または精好平というところから、女房装束の緋(め)の袴に用いられる精好織の系統を引くものであろう。経(たて)を密にし、ための無然(より)の緯糸(ぬい)をぬらして強く打ち込み、緻密(ちみつ)に織り上げる。経緯とも練糸(ぬいと)を用いたもの、経に練糸と生糸を、緯に生糸を用いたものなどがある。地合いは塩瀬に似たやや厚地の織物で、袴に仕立てると独特な張りがある。〔勝呂小枝〕

せんだいはら 【仙台平野】 宮城県の北部から南部にかけて広がる東北地方最大の平野。陸前平野ともいう。南は阿武隈(あぶくま)山地、西は奥羽山脈、北は一関(いちのせき)丘陵で境され、北東は北上山地南部の山々で限られ、南東は仙台湾に面する。平野は中央部の松島・富谷丘陵を境にして、北部を仙北平野、南部を仙南平野とよんでいる。仙南平野は狭義の仙台平野で、阿武隈山地北端の角田盆地をはじめ白石盆地や村田盆地などの小盆地と、阿武隈川およびその北の名取川・七北田(ななきた)川などがつくる扇状地や三角州、それに仙台湾岸沿いに発達する浜堤列や後背湿地からなり、後背湿地には阿武隈川河口から松島湾まで貞山堀(いざぎはんぼり)が海岸に沿ってつくられている。仙北



センダイハギ

平野は北上川の主流や迫(はさま)川・江合川などの支流および鳴瀬川などがつくる沖積(ちゅうせき)平野で、南半には麓岳(のだけ)山(232m)をはじめ丘陵が点在し、北半には西に奥羽山脈から続く築館(つきで)台地があるのみで広い低地が続き、川は蛇行(だこう)して、自然堤防が形成され、後背湿地には伊豆沼(いずぬま)・長沼(ながぬま)など多くの沼沢がみられる。この平野には鹹水(かんすい)性の貝がみられ、かつて海岸線が平野の奥まではいりこんでいたことを物語っている。平野では江戸時代から沼の干拓や河川の改修が行なわれて水田の拡張が図られ、現在では東北地方の主要な穀倉地帯となっている。平野には宮城県の大部分の市が集まり、南部には東北地方最大の仙台市がある。〔味沢成吉〕

せんだいわん 【仙台湾】 宮城県中央以南の大湾で、牡鹿(おしか)半島先端から福島県相馬(そうま)市の鵜ノ尾崎(うのおき)に至る線の内側の海域をいう。全体としては湾入は浅く、北部のリアス式沈水海岸に対して平滑なゆるい弧状海岸線をなす。北東部の牡鹿半島と松島諸島との間に石巻(いしのまき)湾、松島諸島と七ヶ浜半島との間に湾入した松島湾の両支湾がある。

せんたく 【洗濯】 繊維製品に付着した異物(汚れ)を除去する操作をいう。水を媒体とする湿式洗たく(ランドリー)と、有機溶剤を用いる乾式洗たく(ドライクリーニング)に二大別される。汚れには、油性汚れ(人体から分泌される油脂など)と、固形汚れ(煤煙・粘土・有機性のチリなど)がある。また、水溶性・溶剤可溶性でも分類する。固形汚れ中にはこのいずれにも不溶のものが多い。

洗いはには、洗たく機を用いるものと手によるものがあり、手洗いの方法にはさらに、手もみ・板もみ・はけ・たたき・つかみ・押しつけなどがある。

【洗たくの条件】 ①温度: 高温ほど洗浄効果は大きい、わが国の給湯設備、洗たく機の耐熱性などの現状では40℃が理想的である。特に羊毛製品・ナイロン・アセテートや濃色の染色物は高温洗浄を避ける。②洗浄の濃度: 市販洗剤に共通して、0.1～0.2%(1～2g/l)とする。たとえば容量30lの洗たく機には30～60g。これより高濃度

にすると、洗浄効果はかえって低下する。③時間: 洗たく機(パルセーター形・攪拌(かくはん)形・回転形)の機種により異なる。長時間ほど効果は高いが、20分以上になると、効果の上昇率は横ばいになる。④洗剤の種類: 主たる界面活性剤の種類によって、その他の条件との関係が異なる。たとえば石油系洗剤は、温度効果は小さいが濃度効果が大きく、低濃度での洗浄効果が劣る。非イオン系洗剤は、さらに低濃度で高い洗浄効果をあげる。⑤その他の条件: 水の硬度が高いと、洗浄効果は低下する。汚れの種類と繊維の種類の組み合わせも洗浄性に影響があり、特に疎水性合成繊維(ポリエステルなど)は再汚染性が大きいので、長時間の洗たくは不利となる。繊維のいたみが少ない場合は、アルカリ浴での洗浄ほど汚れの除去効率が大きい。これら、洗浄の諸条件のうち、温度・濃度の影響は特に著しい。

【洗たくの理論】 汚れ除去の機構は次の三つに分けて考えられている。①界面活性: 界面活性分の働きによるぬれ・乳化・懸濁・再汚染防止・油の可溶化など。これらはすべて活性剤分子の吸着に基づく。②界面電気: 繊維・汚れの帯電による反発が、汚れの離脱を助け、再付着を防止する。無機配合剤の役割が大きいとされている。③機械作用: 終局的には外部から加わる機械的な仕事が必要で、繊維をいためない効率的な機械作用により汚れが除去される。布面に直角にあたる衝撃力が有効である。

〔矢部章彦〕

せんたくきゅうしゅう 【選択吸収】 植物が生活に必要な無機塩類を水溶液の形で吸収するときに、外界の水溶液の組成をそのまま吸収するのではなく、溶解塩類を選択的に吸収することをいう。たとえば海藻(かいそう)には、海水中に多量に存在する塩化ナトリウムがきわめて少量しか認められないが、海水中に少ない臭素やヨウ素が海藻中にかなり多量に存在する。このような現象は体各部の細胞が物質を吸収するときに選択することを示しており、原形質膜などの選択透過性や、膜の能動的吸収がこれに関係している。〔吉田精一〕

せんたこれや 【千田是也】 (1904～) 俳優・演出家。本名伊藤閑久(いとうく)。東京生まれ。舞踊家伊藤道郎、舞台美術家伊藤嘉朗(きさく)の弟。夫人は女優の岸輝子(てるこ)。早稲田(わせだ)大学独文専科中退後、築地(つきじ)小劇場の第1回研究生となる。1927年(昭和2)にドイツに留学して、表現主義演劇を研究、帰国後は新築地劇団・新協劇団で俳優兼演出家として活躍した。1944年青山杉作(すぎきく)らと劇団俳優座を結成、同劇団の指導者として尽くすかわり、ブレヒトの紹介などにすぐれた仕事を残している。著書に《近代俳優術》など。〔西尾邦夫〕

せんたん 【選炭】 炭鉱で採掘された原炭に選別などの処理または加工を施して、

需要家の要求にかなった石炭(精炭)あるいは加工炭を生産する操作。原炭の中には石炭のほかに岩石(ぼた)が含まれているため、これを選別・除去することが多くの場合に必要である。この操作は選炭の最も重要な部分で、選別は主として石炭とぼたの比重差を利用して行なわれ、浮選その他の方法を併用する場合もある。石炭を適当に破碎し、ふるい分けして使用目的に適した粒度のものにすることも選炭の一つの重要な役割である。精炭を混合(混炭)したり、あるいはさらに加工し、練炭としたりして出荷する場合もある。〔井上外志雄〕

せんだん 【棟】 双子葉植物・センダン科。暖地の海岸に自生するが、広く庭木としても栽培されている落葉高木。高さ10m、太さ60cmに達する。若い枝や葉に細かい星状毛があるが、のちに脱落する。葉は枝の先に集まってつき、2〜3回羽状複葉で托葉(たくりょう)はなく、互生する。小葉は1cm以下の柄で対生につき、長さ3〜7cm、幅1〜3cmの卵状楕円形(だえんけい)で、表面には光沢がある。5〜6月、若枝の葉腋(ようえき)に淡紫色の五弁花が円錐(えんすい)状に集まって咲く。果実は楕円形で、長さ10〜17mm、10〜12月に黄熟する。樹皮を苦楝皮(くれんぴ)といい、漢方では虫くだしとして用いる。また、果実を苦楝子といい、整腸・鎮痛薬とされる。なお、〈栴檀(せんたん)は双葉よりかんばし〉のセンダンはビャクダンのこと、本種のことでない。〔加藤傳重〕

せんだんぐさ 【栴檀草】 双子葉植物・キク科。野山に普通にみられる一年草。茎は四角く、細毛がある。茎の下部の葉は対生し、上部の葉は互生する羽状複葉で、各裂片がさらに卵状に裂けることがある。この葉の形がセンダんに似ることからこの名がある。9〜11月、黄色の頭状花をつけるが、ほとんど筒状花で舌状花は少なく、あっても結実しない。果実は瘦果(そうか)で長さ1〜2cm、線形で角張っており、3〜4mmの冠毛の変化したとげがある。

本種によく似たアメリカセンダングサは、北アメリカ原産の帰化植物で、高さ1m以上になり、葉は3〜5小葉からなる複葉で、頭状花には舌状花があり、平たい果実をつける。また、センダングサは、センダングサに似るが、舌状花はまったくない。タウコギは田や小川の縁などにはえ、3小葉からなる複葉で、舌状花はない。

〔加藤傳重〕

ぜんちくやころう 【善竹弥五郎】 (1883〜1965) 能楽師。大蔵流狂言方。茂山忠三郎良豊(よしとよ)の子。旧姓、茂山。前名、久治。主として関西で活躍、独自の解釈を加えた写実的演技が高く評価された。芸術院賞・朝日文化賞受賞、重要無形文化財個人指定。現大蔵流家元大蔵弥太郎は次男。

→大蔵流

せんちこかね 【雪隠金亀子】 こん虫類・



センダン



センダングサ



センチコガネ

鞘翅(しょうし)目・コガネムシ科。体長14〜20mm。黒色で、紫色の光沢があるものが普通であるが、個体によっては藍色(あいろ)・青銅色・緑紫色・銅色などの光沢のものもあって変異に富む。前胸背板は表面がなめらかで、中央後半に細い縦溝(じゅうこう)がある。鞘翅には規則的な小点刻列からなる縦溝がある。体の腹面と脚は通常は青藍(せいらん)色をおびるが、緑藍色や紫色のものもあり、かっ色の長毛がはえている。雄の後脚の腿節(たいせつ)後縁に1個の棘状(きょくじょう)突起がある。また、前脚の脛節(けいせつ)の外側には数個の鋸歯(きょし)状突起があって土を掘るのに適している。日本全土のほか千島列島・サハリン(樺太(からふと))・東シベリア・朝鮮・中国などに広く分布する普通種で、おもに低山帯に多い。成虫は獣糞(じゅうふん)・人糞や腐敗したキノコ類などに好んで集まり、直径1cm内外、深さ10〜15cmのほとんど垂直の穴を掘って、その中に糞塊を詰め、それに産卵して幼虫の食物とする。

センチコガネ類は全世界から約500種が知られ、形態的によくまとまった特徴をもつ群で、触角が11節からなり、その先端の葉

状部が3節からなる点で他のコガネムシ類から明瞭(めいりょう)に区別され、そのためこの類をセンチコガネ科とする研究者もある。日本には、センチコガネのほか、同属で体の幅が広いオオセンチコガネが日本全土および朝鮮・東シベリアなどに、オオシマセンチコガネが、奄美(あま)大島に分布する。さらにこれら3種とは異なる属のムネアカセンチコガネが日本全土・朝鮮・台湾に分布している。これは体長9〜14mmで、体は黄赤(おうせき)色、鞘翅の後半部が黒色。

〔鈴木邦雄〕

ぜんちし 【前置詞】 字義どおりには、名詞・代名詞の前に置いて他の語に対するその名詞・代名詞の関係のしかたを示す品詞。アレクサンドリアの文法家の用語préthesis(前に置くこと)(英語preposition)がその語源。印欧諸語におけるほとんどすべての前置詞は、元来、副詞ないしは副詞的な機能をもつものに由来し、動詞を修飾するものとして名詞と動詞との間に置かれたが、しだいにその前の名詞につくようになって、〈後置詞的〉の機能へと発展し、さらに、名詞の格を明確化するため名詞の前にも立つことが一般的となった。現在、名詞に格変化を残す言語(ドイツ語・ロシア語など)においては、前置詞に対してこれに続く名詞が一定の格変化を要求される。

〔崎山 理〕

ぜんちしき 【善知識】 梵語kalyāṇa-mitra(カルヤーナミトラ)の訳。よき友、すぐれた友の意味で、特に仏教でブツダの正しい教えを説き、正しい道に教え導いてくれる人をさす。その反対は悪知識である。浄土真宗では念仏の教えを勧める者、すなわち法主(ほっす)をさし、禅宗では師僧を尊んでよぶときに用いられる。

ぜんちたいばん 【前置胎盤】 胎盤*の全部または一部が、子宮の下部についている胎盤着床異常の一。ふつう妊娠10か月では、胎盤の下端が内子宮口の上方4〜5cmにあるが、前置胎盤の場合は胎盤が内子宮口をおおっている。多くは分娩(ぶんべん)が始まると同時に出血する。妊娠中に出血の起こることもまれではなく、この場合はなんの前ぶれもなく突然に出血するのが特徴で、大出血することもある。前置胎盤が疑われるときには、設備のよく整った病院で治療を受けることが必要である。

〔木川源則〕

センチメートル ⇒メートル

センチメンタル・ジャーニー スターンの紀行文的小説(1768)。フランス紀行の体裁を取りながら、もっぱらそで触れ合う人々との人情の機微を洒脱(しやだつ)に語り、恋のため狂った美少女や行き倒れのロバに涙し、作者の多感さをいかんなく発揮した作品。形式にとらわれない奔放な構成となめらかな文体は、さわやかな感傷性とともに特異な魅力をかもし出している。

せんちゃ 【煎茶】 葉茶を煎じて飲むもの。中国では明(みん)代に流行した。日本においては江戸初期に黄葉宗(おうはくしゅう)とともに隠元禪師が伝えたといわれているが、実際に急須(きゅうす)を用いる方法となったのは、黄葉の僧であった売茶翁(1675～1763)のころからである。また、生産については元文年間(1736～1740)に山城(やましろ)(京都府)の永谷三之丞(ながたにさんのじょう)(字園)によるといわれる。湯を注いで茶を入れて飲む方法を淹茶(だしちや)といていたが、民間に広まるにつれてこれをも煎茶というようになった。淹茶の呼称は玉露のようにやや低温で浸出するものに残っている。

【飲茶】 煎茶は現代の製茶を代表するもので総生産の80%を占める。煎茶には伸び茶と玉緑茶の区別があるが、一般には日おおいをかげずに栽培した茶葉を製茶した伸び茶をいう。茶園では植え付け後2～3年めから摘みはじめる。採取時期は4月下旬からで、最初に出た芽を摘んだのが一番茶、そのあとの芽を摘んだのが二番茶、さらに三番茶の別があり、地方によっては四番茶まで摘採する。一番茶の品質が良好で二～四番茶はやや劣る。〔大石貞男〕

せんちゃくしゅう 【選択集】 浄土宗の開祖、法然の著。1巻。くわしくは『選択本願念仏集』という。書名は阿弥陀仏(あみだぶつ)が往生業として選びとった本願念仏の要文を集めたものという意味である。1198年(建久9)、法然が関白九条兼実(かねね)の要望にこたえて著わしたものとされる。内容は浄土宗の根本要義を16章に分け、各章ごとに多くの経論を引き、これにみずから解釈を加えたものである。その要点は末世の衆生にとっては阿弥陀仏の本願に即した称念念仏の実践こそ、釈迦(しやか)、阿弥陀、諸仏の選りとられた唯一最勝の解脱の道であることを説いたものである。この書は法然の生前には限られた弟子(でし)にのみ書写を許されたが、没後、まもなく出版されて多くの反響をよんだ。〔大谷雄雄〕

せんちゅうるい 【蘇虫類】 ⇒コケムシ

せんちゅうるい 【線虫類】 袋形動物・線虫綱に属する動物の総称で、ネマトーダという。雌雄異体で、体軸を縦走する消化器系を備え、複雑な生殖系を有する。体腔(たいくう)は偽体腔である。環節・脚をもたず一般に糸状ないし円柱状で、外表は角皮でおおわれる。体長は成虫で1mm前後から2mに達する長いものもある。線虫類には自由生活性と寄生性のものがあり、人畜の寄生虫として重要なものが多いが、農業害虫として知られるものも多い。寄生生活をする線虫のうち、人畜寄生の線虫では、全生涯(しょうがい)を寄生生活で送るもの(中間宿主を必要とするものの多くはこれに含まれる)や生活環の一部で寄生生活を営む鉤虫(こうちゅう)・糞(ふん)線虫など種々のものがある。また、各種糸状虫類のように、中間宿主を

1回必要とするものや顎口虫(かくこうちゅう)のように2回以上必要とするものや肝毛細虫や施毛虫のように卵や幼虫が終宿主の体内にとどまり、その宿主が次の宿主に食われて感染するという特殊な経路をとるものもある。寄生線虫類の宿主への侵入は経皮・経口感染に大別されるが、経皮感染の場合、中間宿主の吸血吸虫の刺咬(しこう)の際感染する糸状虫類のようなものや外界で感染幼虫となったものが感染する鉤虫類のようなものがある。経口感染では、回虫・蟯虫(きょうちゅう)・鞭虫(べんちゅう)などのように卵が取り込まれるものや、顎口虫・施毛虫などのように食肉を通して感染するものがある。また、鉤虫類のように経皮・経口いずれでも感染可能なものもある。〔山本 久〕

せんちゅうるい 【蠕虫類】 蠕形動物ともいう。体形が細長く、体節構造・脚のない扁形(へんけい)動物・線形動物を一括したよび名で、系統分類学上の用語ではない。場合によっては環形動物を含めることもあり、また、内部寄生虫のことをいうこともある。

せんちゅう 【船長】 特定の船舶乗組員であって、首長として指揮し、船舶および積荷を合わせた財産を管理し、運航に当たる者。歴史的にみれば、海上企業の共同経営者としての地位をもっていた時代もあったが、現在では船主船長の場合を除いて、船舶所有者の雇用人としての職業になっている。しかし、海上においては船舶は船舶所有者のもとを離れて存在し、かつ危険が伴うので、公法上・私法上広範な職務権限を与えられ、海商法上では船主の代理人として航海に必要ないっさいの権限を認められている。また、公法上では船員法・船舶法などによってその権限が規定されている。職制としての船長は船舶職員法による海技免状を取得し資格を得た者が、船主から任命されるのであるが、船員法の上では、船舶乗組員の中で船長と船員は完全に区別された存在となっている。〔飯島幸人〕

せんちゅう 【前趙】 中国、五胡(ごこ)十六国中の一国。最初国号を漢とし、のち趙に改めた。山西省に移住していた南匈奴(きやうど)の劉(りゅう)氏が建てた王朝(304～318)。族長の劉淵(りゅうえん)は西晋(せいしん)末期の八王の乱に乗じて諸部族を統合し、大単于(だいぜん)となって平陽(山西省臨汾(りんぶん)県)に都した。その子劉聡(りゅうそう)は一族の劉曜らを將として洛陽(らくやう)を攻略させ、さらに長安にいた愍帝(びんてい)を下して西晋を滅ぼしたが、劉聡の死後、趙は西の劉曜と東の石勒(せきらく)とに分裂して滅んだ。

〔川勝義雄〕

せんちゅうがん 【閃長岩】 中性岩*の中の深成岩*で3分の2以上がカリおよびソーダを主とするチョウ石*で構成されている岩石。セキエイはあっても10%以下であるが、その量がしだいにふえてカウ岩*に移り変わっていくこともまれではない。有色鉱物

としてはカクセン石*とクローンモ*が最も普通である。中でアルカリセンチュウ岩とよばれる種類はアルカリ岩*の一種であって、種々の珍しい鉱物を含むことがある。

せんつう 【疝痛】 胃腸管・胆嚢(たんのう)・胆管・尿管・膀胱(ぼうこう)などの中空臓器(管腔(かんかう)を有する臓器)が強く痙攣(けいれん)性に収縮するため起こる、きりきりしぼるような痛みをいう。疝痛は、①中空臓器の内腔が機械的に閉塞(はいそく)された場合(幽門狭窄(きようまく)、大腸癌(がん)、ヘルニアの嵌頓(かんどん)、腹膜の癒着(ゆちゃく)など)、②他の部位からの反射的な刺激によるもの(急性の胃炎・腸炎、消化性潰瘍(かいよう)、胆石症、尿管結石症、腎(じん)結石症など)、③内臓を形成する平滑筋の神経刺激が過剰となった場合(鉛中毒、ニコチン中毒、梅毒による脊髄癆(せきずいろう)など)、④腸管の内容物の通過が局所的に妨げられる場合(腸閉塞、腸間膜の血栓(けっせん)や栓塞など)などにみられる。〔佐野隆志〕

せんつうじ 【善通寺(市)】 香川県北西部の市。人口37,000。806年(大同1)唐から帰った空海がその生誕の地に真言宗総本山善通寺を創建して以来、その門前町として発達した。1896年(明治29)陸軍第11師団司令部が置かれて軍都となり、第2次世界大戦後は陸上自衛隊が駐屯(ちゅうとん)している。1954年(昭和29)善通寺町と周辺4村が合併して市制施行。市域は西高東低の地形で、西部はカウ岩を基盤とする断続した山地で、東部には丸亀(まるがめ)平野が広がる。市街は整然とした街路をもち、かわらぶき2階建て平入りの連続した民家などに昔のおもかげを残す。北半部は住宅地域、南半部には官庁などの公共施設や自衛隊施設などがある。産業三大別人口比は16:28:56。平野部では米・麦・野菜の生産が多く、山麓部(さんろくぶ)ではミカン・タバコの栽培が行なわれる。古くから溜池(ためいけ)が多く、また地下水の出る出水(ですい)による灌漑(かんがい)がみられる。土讃(とさん)本線・国道32号線が平行して市域を南北に走り、国鉄バスが高松市・観音寺市・琴平町など周辺都市と連絡する。

せんつうじ 【善通寺】 香川県善通寺市にある真言宗の総本山。山号は五岳山誕生院。空海(弘法(こうぼう)大師)の誕生の地として知られ、東寺(教王護国寺)・金剛峯寺(こんごうぶじ)とともに三大霊跡と称される。四国霊場八十八ヶ所の第7番札所。9世紀はじめ、空海が唐から帰国して真言宗布教の勅許を得て道場を建立(とんりゅう)し、父の名をとって寺名としたという。歴代天皇の信仰あつく、13世紀義隆宇多天皇の修営を得た。その後火災にあったが再建を重ね、1941年(昭和16)総本山に昇格した。〔杉坂靖子〕

せんてい 【剪定】 広義には果樹の樹体を栽培の目的に添わせるように木自体に施す作業。狭義には枝を切る。枝を切る

手法には枝を分岐点から切る間引き(間截(かんせつ))と枝を途中で切る切り詰め(短截)があり、適宜組み合わせ用いられる。広義の剪定にはこの剪枝のほか次のような手法が含まれる。剪根: 苗木を植えるときなど根を切り詰めたり、いたんだ根を健全部まで切る。誘引: 枝を欲する方向に引っ張り、あるいは支柱に縛りつけること。除芽: 発芽前または発芽と同時に不要の芽を除去すること。摘心: 新梢(しんしょう)が木質化するまえにその先端を摘むこと。燃梢(ねんしょう): 新梢を切らずに燃転させること。環状剥皮(はくひ): 養分の下降を妨げるために枝の周囲の皮を一部環状にはぎ取ること。縦傷: 外皮が緊縮して内部組織が圧迫され生長が弱まった枝梢などに縦に傷をつけ樹勢を増進させること。摘果: 他の果実の発育を助けるために密生部を除去すること。剪定は先々の枝の動きを見通し、樹形を整え、結果習性を考えて、葉によく陽光があたりように大枝から小枝へ、木の上から下部へとなうのが順序である。剪定によりむだの少ない枝の伸びと、開花・結実との均衡、均産、品質向上、盛果期の維持、管理作業の便などが得られる。〔岩垣駿夫〕

せんてい 【全通】⇒全通信従業員組合
せんていきかん 【前庭器官】⇒平衡器官
せんていこう 【選帝侯】 選挙侯ともいう。中世ドイツで皇帝を選ぶ権利を有する有力諸侯。カロリング朝断絶後は、全諸侯が皇帝の選出に参加していたが、13世紀中葉以降は有力な僧侶諸侯がその指導権を握るようになり、特にカール4世が發布した金印勅書(1356)によって、彼らの地位と権利が確認されるようになった。金印勅書当時の選帝侯はマインツ・トリール・ケルンの各大司教、ファルツ伯・ザクセン公・ブランデンブルク辺境伯・バーメン王の7人であった。〔松 俊夫〕

せんていしんじゅうぎょういんくみあい 【全通信従業員組合】 略称は全通。1946年(昭和21)結成され、組合員数19万9,000。第2次世界大戦後、全日本産業別労働組合会議(産別)の最も戦闘的な組合の一つとして指導的役割を果たしたが、1949年以降、民同派の力が強まり、現在は反共路線をとっている。国際自由労働組合連盟に加盟。1957年全通信労働組合と改称、今日に至る。

せんてつ 【鉄銑】 鉄鉱石を還元してつくられた鉄の一種で、炭素を2.5～4.5%含むものをいう。ずく・なまこともよばれる。炭素含有量が高いために鉄本来の靱性(じんせい)、可鍛性はないが、融点が高く铸造性(せんせい)がよい。鉄鉄製造法としては、溶鉄炉によりコークスを用いて鉄鉱石を還元する方法が最も広く採用されており、ほかに小形溶鉄炉により木炭を使用して製造する木炭銑、電熱を利用する電気銑などがある。鉄鉄の用途の大部分は製鋼用原料としてであり、塩基性転炉銑(トーマス銑)、酸性転炉銑(ベ

ッセマー銑)、上吹転炉銑などに分類される。一部は鋳物用原料として普通鋳物銑・高ケイ素銑・球状黒鉛鋳鉄用銑などとして使われる。〔草川隆次〕

せんでん 【宣伝】

① ➔ 広告

② ➔ プロパガンダ

せんでんしょう 【仙伝抄】 最古の生け花の秘伝書。奥書によると1445年(文安2)に富阿弥(ふうあみ)から7人の相伝者を経て、1536年(天文5)に池坊(いけのぼう)専慈に伝えられたものである。内容は元服の花、出陣の花、三つ具足の花など53条にわたる口伝(くでん)をしるした本文と谷川流と奥輝之別紙の3部分からなる。体裁は90年間に集められた約束事を箇条書きに大成したもので、序文も結論もなく体系化されていない。全体的に仏教の教理の影響が強いが、四季の景観に沿って自然に立てることを重視しているのが注目される。猿楽(さるがく)、和歌、連歌、書などとの関連がみられ、けいこ・修練・執心などを強調し中世芸能としての生け花を特色づけている重要な文献である。➔生け花

〔大井ミノブ〕

せんてんせいきやだいけつしょうしょう 【先天性巨大結腸症】 結腸、特にS字状部に拡張・肥大・延長などが先天性にみられる疾病(しっぺい)。ヒルシュスプルング病ともいう。原因は先天性奇形による拡張や、結腸下部および直腸部を支配する神経節細胞の欠損、腰椎(ようつい)神経支配下の自律神経失調などのために蠕動(ぜんどう)不全があったりして起こる。病児の腹部ははなはだしい膨隆を示し、打診すると鼓音を呈し、便は著しく多量に貯留して、がんこな便秘をみる。腹部のX線撮影によると、拡大・膨隆した結腸が見られる。治療としては便秘予防のための食事を与えるが、この食事療法で効果がなければ主として拡張したS状結腸部を切除する。〔宇留野勝正〕

せんてんせいこかんせつだっきゅう

【先天性股関節脱臼】 股関節の構造に先天的な欠陥があるため起こる股関節の脱臼。女兒に多い。胚芽(はいが) (→胚)欠損、子宮内での機械的脱臼説などがあり、遺伝性のあることも報告されているが、真の原因は不明。垂脱臼型から大腿(だいたい)骨頭の骨盤後方移動まで、ふつう第4型まで分類されているが、最近では保健所・小児科医による乳児検診が行き渡って早期に発見されるため、重症の第4型は減少した。以前は牽引(けんいん)療法をしてからギブス固定で治療した例が多かったが、現在では早期(生後1～3か月)発見の場合、スダレ固定、リーメンビュージェル固定(バンドで足を縛っておく)などで治療するが、医者も患児も母親もギブス固定による苦しみから解放された。股関節が開きにくい、足の一方が短い、脊柱(せきちゅう)が左右のどちらかに曲がっているなどの異常を認めたら、すぐ整形外科医

に受診することがたいせつである。なお、正常と思われても生後3か月めぐらいにいちおうレントゲン検査を受けるのが安全である。〔山中英夫〕

せんてんせいじゃくしつ 【先天性弱質】

新生児の身体各器官の機能が発達不十分で、子宮外生活を完全に営みえない状態をいう。いわゆる未熟である場合が大部分であるが、過熟であっても胎盤機能不全症候群などの特殊な場合には同様に弱質状態のことがある。原因としては先天性ならびに周生期の疾病(しっぺい)(先天性梅毒・頭蓋(とうがい)内出血・先天性奇形・血液型不適合など)もあるが、最も多いのは早産であり、その大部分が未熟児である。そして新生児死亡原因の大部分を占めている。〔宇留野勝正〕

せんてんせいしんぞうびょう 【先天性心臓病】

ほとんどのものが先天性心臓奇形で、主として胎児期初期の心臓の形成期の障害(妊娠中毒症、風疹(ふうしん)その他のウイルス感染症、放射線、ホルモンなどの影響)によって奇形を生じたものである。心室中隔欠損症・心房中隔欠損症・肺動脈弁口狭窄(きょうさく)・大血管転位・動脈管開存・ファロー四徴症などの種類がある。症状は、重症型ではチアノーゼ・肝臓腫大(しゅだい)・浮腫・呼吸困難などを呈するが、軽いものではまったくない自覚症がない場合もある。聴診による心臓雑音、X線撮影による心臓の異常形態、心電図・心音図などの異常によって診断する。軽い型のものは放置しておいてもよいが、重症なもので手術によって治療(ちりょう)するものは、年齢的に適当な時期に手術を施す。〔宇留野勝正〕

せんてんせいしょうへいそくしょう

【先天性腸閉塞症】 先天性腸管奇形の一つで、腸管の一部が閉塞している場合をいう。胎児期の腸管形成時の障害が原因となる。閉塞は十二指腸以下全腸管にみられるが、特に十二指腸部に最も多い。生後1～2日で腹部は膨満し、嘔吐(おうと)が起こり、吐物には胆汁(たんじゅう)が混じることが多い。腹部のX線撮影を行なうと診断がつく。治療はできるだけ早く手術を行なう。もし3～4日も放置すれば、閉塞部より上部が著しく拡張し、ついには破れて腹膜炎を起こし、死亡する。〔宇留野勝正〕

せんてんせいばいどく 【先天性梅毒】

胎児が子宮内で、胎盤を通して母の梅毒に感染した場合をいう。多くは子宮内で胎児梅毒として死亡し、流産や死産をするが、残ったものも7～9か月で早産をすることが多い。胎内血行性感染であるから、第2期梅毒の症状を呈し、乳児期では皮膚症状(顔面・手掌・足底その他の浸潤、落屑(らくせつ)・頭髮脱落(とうまつだつらく)など)・慢性鼻炎(しばしば鼻出血)・骨軟骨炎(上下肢の運動麻痺(まひ))・臓器梅毒(肝および脾腫大(しゅだい))などを示す。以上のほか、幼児期後半以後に症状を呈する晩発性の遅発梅毒もあり、切歯異

常・実質性角膜炎・内耳性聾(ろう)などを示す。診断にはすべて血清反応を行なう。治療はヒ素剤・蒼鉛(そうえん)剤やペニシリンその他の抗生物質による駆療を行なう。

→梅毒

〔宇留野勝正〕

せんてんてき【先天的】⇒ア-ブリオ-リ・ア-ポステリオーリ

セントー【CENTO】⇒中央条約機構

せんとう【船燈】夜間、船の種類や行動を他船に知らせて、衝突を防止するために掲げる燈火。船燈の掲示は海上衝突予防法に規定されている。作業中・漁労中・引き船などによって異なりその種類は多いが、一例をあげると、航海中の大形船は、前部マストと後部マストおよび船尾に白燈を、船橋の左舷(さげん)に赤燈、右舷に青燈を掲げなければならない。

せんとう【仙洞】仙院・緑洞・蕨姑射山(はてやのやま)ともいう。上皇の御所。のちには上皇その人をさすようになり、居所は仙洞御所といわれた。古くからこの名称はあったらしいが、皇居と別に設けられたのは平城(へいぜい)上皇の平城宮が初めという。院政時代には重要な御所となり、洛中(らくちゅう)・洛外の諸所に設けられた。

せんとう【蠕動】筋運動の特別な形式をいうもので、うごめき運動ともいう。蠕虫類の皮膚にある筋肉や、いろいろな動物の腸や胃が行なう運動で、動物の移動や穿掘(せんくつ)の運動、また器官の内容物を送ったりかき回したりするのに役だっている。

ぜんどう【善導】(613~681)中国、唐代の僧。善道とも書く。山東省青州または安徽(あんき)省泗州(しゅう)の人。姓は朱氏。幼少にして出家し、《観無量寿經》に注目して浄土門にはいる。のち道綽(どうしゃく)の教えを受けた。長安を中心に教化活動をし、念仏によって末法世の凡夫が阿弥陀仏(あみだぶつ)の浄土に往生できるとする信仰を広め、中国浄土教の極盛期を築いた。光明寺・実際寺・悟真寺などに住し、その間《阿弥陀經》の書写10万巻、浄土変相図300を残したという。現存する著書に《観無量寿經疏(しよ)》《往生礼讃(らいさん)》《観念法門》《法事讃》《般舟讃(はんしゅうさん)》がある。日本浄土宗の開祖法然への思想的影響が大きい。〔佐藤成順〕

せんとうき【戦闘機】敵の航空機を攻撃または迎撃することを任務とする軍用機。第1次世界大戦の初期、偵察(ていさつ)に出た飛行機が敵の偵察機を妨害するために小銃や機関銃を積むようになったのが最初で、まもなく空中戦専門の戦闘機がつくられるようになった。敵機とわたり合うために単座で軽快な機体のものが大部分で、第1次世界大戦末期には西部戦線(ドイツとフランスの国境地帯)上空でドイツとフランス・イギリス双方の戦闘機がはばばしい空中戦を展開した。このころは複葉機時代であったが、空戦の性能を向上させるためにドイツのDr-1のような三葉機も使われた。



飛燕(日本)



ホーカーハリケーン(イギリス)



メッサーシュミット262(ドイツ)



ハインケル162(ドイツ)

第2次世界大戦ごろの戦闘機



ノースアメリカンF-100 スーパーセイバー(アメリカ)音速を突破した世界最初の超音速戦闘機

戦闘機

以後、第2次世界大戦までの間に戦闘機の構造は金属製・単葉・引き込み脚となり、戦法も単機による巴戦(ともえせん)から編隊中心の高速一撃戦法に変わり、爆撃機護衛のために長距離を飛ぶ双発の大形戦闘機も現われた。第2次世界大戦にはいると、陸上・海上ともに航空機の重要性は増大し、制空権の把握(はあく)が要請されるようになったため、戦闘機は飛躍的な発展を遂げた。このころから制空用・防空用・夜間用などの専門分化が明確となり、戦後のジェット機時代にはいってさらに複雑化している。

第1次世界大戦初期の戦闘機が全備重量600kg、最大速度150km/時、7.7mm機銃1といった性能であったのに、わずか50年後の今日、F-4ファントム*のように27t、マッハ2.4(2,800km/時)、ミサイル搭載(とうさい)数8という驚異的な性能をもつまでに発達を遂げている。〔藤井冬木〕

せんとうこう【銭塘江】チエンタン川

中国東部、浙江(せつこう)省にある川で浙江ともいう。全長380km。同省西部の仙霞嶺(せんかれい)に源を発し、北東に流れて杭州(こうしゅう)平野を潤して杭州湾に注ぐ。流域は浙江省のおよそ半ばを占め、重要な農産地帯を形成している。河口で満潮のときに起きる海嘯(かいしゅう)は有名で、1960年に支流の新安江にダムが完成した。

せんとうこうた【船頭小唄】大正時代の流行歌。〈枯れすすき〉ともいわれる。野口雨情作詞、中山晋平(しんぺい)作曲になり、1921年(大正10)に発表され、映画化もされた。

せんとうごしよ【仙洞御所】天皇が位を譲り、上皇(太上(だじょう)天皇)と称してからすまう所。院の御所ともよばれた。したがって、歴史上多数の仙洞御所が営まれた。現存する唯一の遺構である京都御苑(ぎょえん)内の旧仙洞御所は、後水尾(ごみずのお)上皇のために徳川幕府が造営したもので、現在は大宮御所とともに、京都御所の東南部に広大な一郭を占めている。ここには平安時代、藤原氏の土御門殿(つちみかどでん)や京極殿があり、歌人紀貫之(きのつらゆき)の邸宅跡ともいわれる。1629年(寛永6)後水尾天皇は退位したが、仙洞の造営工事は、天皇在位中の1627年から始められ、まる3年を要して竣工(しゅんこう)した。作事奉行(さきよう)は小堀(こぼり)遠州である。遠州はさらに1634年から1636年にかけて泉水作事奉行をつとめ、仙洞ならびに女院御所の書院や数寄屋(すきや)を新造し、庭園の大改造を行なった。ここは後水尾院以来、霊元院・中御門院・桜町院・後桜町院・光格院の仙洞御所となったが、1661年(万治4)の炎上をはじめとして、1673年(寛文13)・1676年(延宝4)・1684年(貞享1)・1708年(宝永5)・1788年(天明8)とたびたびの火災にあっている。そのたびに幕府の造進により復興したが、1854年(嘉永7)4月の焼失後は上皇の在位がなかったため造営が行なわれず、現在、御殿はなにも一つ残っていない。しかし庭園はよく保存され、寛永の創設以来、大きく変容しながらも、その美しい姿を今日に伝えている。庭園は築地塀(つちどべい)で囲まれた敷地の東側に寄って大きな池が二つ、南北に連なっている。北の池はもと女院御所の庭園にあったものであるが、遠州の作庭当初に比べて拡張され、1747年(延享4)桜町上皇がここに移るに際し、南の池(本来の仙洞庭園)と堀割でつながれて一つの庭となった。北池の北西隅(ぐう)には阿古瀬(あぐせ)とよばれるふちがあり、ヤマブキの名所となってい

る。北岸には鎮守の社のある丘があり、さらにその北部一帯の平地は稻田の跡で御田社(おののしや)が祭られている。池の東寄りに大きい中島が1個あり、西岸からながめた池に奥行きを感じさせる。南池には中央に二つの中島(もとは一つの島)があり、現在は藤だなどおおわれた八つ橋と、平橋および反橋の、意匠を異にした三つの自然石の橋で東西両岸をつないでいる。そのため池が2分されているように見えるが、その北側の池には滝が落とされ、滝の背後の築山から池に向かって芝草のみの美しい出島が伸びやかに南に突き出ている。この出島と東側の切り石をたたんだ直線の護岸、それに続く大ぶりの自然石を並べた岩石様の護岸は、遠州作庭当初の意匠と認められる部分で、長年雨に多少変化したとしても、遠州の作風を知る上で貴重なものである。南池の南半分では西岸から南岸に至る広大な州浜が目を見く。州浜に敷きつめられた粒ぞろいの長円形の玉石は小田原藩主大久保侯の献上と伝え、小田原の海岸で石一つに米1升を与えて集めさせたというところから俗に小田原一升石といわれている。庭の南部には桜町上皇時代に醒花亭(せいけいてい)と命名された茶亭があり、北池西岸には1884年(明治17)に近衛邸(このえてい)から移築した茶室又新亭(ゆうしんてい)がある。かつてはこのほか修学院離宮上御茶屋(かみのおちや)から移した止々斎があり、南池の中島には滝殿や釣殿(つりどの)、その東岸には鑑水亭などの庭園建築が整えられていた。〔村岡 正〕

ぜんとうし 【全唐詩】 中国、唐代の詩をすべて集めたもの。900巻。1707年(清(しん)の康熙(こうし)46)、勅を奉じて彭定求(ほうていせう)らが編纂(へんさん)した。集録した作者は2,200余人、詩の数は48,900余首。はじめに帝王后妃の作、次に楽章楽府、その次に諸臣の詩・聯句(れんく)・造句・名媛(めいえん)・僧道・外国・神仙・鬼怪・諧謔(かいぎやく)諸雑体という順序に分類してある。

ぜんとういつ 【全唐詩逸】 《全唐詩》にもれた詩を集めたもの。3巻。日本、江戸時代の儒者市川世寧(寛斎)の編。遣唐使や入唐(にっぽう)した僧侶(そうりよ)が持ち帰り、日本にだけ伝えられていた詩100余編を収録、むすこの市河米庵(べいあん)らにより、1804年(文化1)、京都で刊行された。のち中国に伝わり、珍重された。

せんとうてい 【宣統帝】 ⇒溥儀(ふぎ)

セント-エルモのひ 【セント-エルモの火】 雷を伴うような天気のとくに、電場の強さが大きくなり、塔の頂、柱の尖頭(せんとう)、避雷針の先などから放電現象として紅色や青色の炎が見える現象。山頂などでは毛髪(け)の先や指先、山小屋の屋根の角などに現われることがあり、また海上では船のマストの尖端などで起こる。

セントキッツ(島) [Saint Kitts] 別名セントクリストファー島。西インド諸島、



セントボーリア

レーワード諸島にある島で、面積175km²。ミゼリイ山(1,149m)があり、海岸の平野ではサトウキビ・ワタ・カカオ・コーヒー・タバコ・ココナツ・果樹をつくる。バステレは港市で行政の中心地。イギリス領。

せんどきぶんか 【先土器文化】 ⇒無土器文化

セントさんぼう 【セント算法】 音程を数的に表わすために、エリス^{*}によって考案された単位。平均律の半音を100セント、すなわち1オクターブを1,200セントとする。ある二つの音の音程をセントで表わすためには、振動数の比Aを求め、 $1,200 \log_2 A$ を計算すればよい。セントは種々の音程の比較や、平均律にない音程(たとえば微小音程)を把握(はく)するのに便利である。

セント-ジェルジ [Albert Szent-Györgyi] (1893～) ハンガリー生まれの生化学者。ブダペストに出生し、現在はアメリカのウッズホール臨海実験所で研究している。彼の業績としては、ビタミンCの発見、細胞内呼吸におけるジカルボン酸の役割の発見、さらに筋収縮のタンパク質アクチン・ミオシンがアクチンとミオシンからなり、ATP^{*}(アデノシン三リン酸)の存在下で収縮する事実を発見したことがあげられる。エッセイストとしても知られる。

セントジョン [Saint John] カナダ、ニューブランズウィック州のファンジー湾北岸にある港湾都市。州第1の都市で、人口112,000(1974)。港はセントジョン川の河口にある天然の良港で、カナダではモントリオール・バンクーバーに次ぐ小麦の輸出港である。冬も凍結しない。

セントジョンズ [Saint John's] カナダ、ニューファンドランド州の州都。大セントジョンズの人口は13万2,000(1974)。ニューファンドランド島南東岸にある北アメリカ最東端の港市で、島の南東沖合にグラントバンクなどの好漁場を控えクジラ・アザラシ・タラ漁業の基地となっている。北アメリカ最古の町で、1583年に創設され、その後、イギリス・フランス両国が争奪をくり返したが、1762年イギリスの支配下にはいった。市街は港の背後にある丘の傾斜地に発達しており、古めかしい景観はイギリスの都市を思わせる。カナダ・ナショナル鉄道会社の

ニューファンドランド横断鉄道の東の起点で、第2次世界大戦後はフィルム・機械などの工業が発達している。〔梶村大彬〕

セントバーナード [Saint Bernard] イヌの一品種。雪深いアルプス山中で道に迷った旅人を救助するイヌとして、世界的に知られている。1816年オオカミと誤認されて射殺されたバーリー号は、それまでに42人の遭難者を救助したという。体高は65～70cm、体重は73～95kgくらい。

セント-ビンセントおよびグレナディーン (諸島)⇒ウィンドワード(諸島)

セントヘレナ(島) [Saint Helena] 失脚したナポレオン1世が流されて生涯(しょうがい)を終わったところとして知られる南大西洋の孤島。面積121km²。アフリカ大陸南部、アンゴラの西方約1,900kmにありイギリス領である。火山島で、1502年にポルトガルの航海者J.ノバが発見したときには、森林におおわれた無人島だった。セントヘレナとは、1633年にオランダがここにつくった東方航路のための港につけられた名である。アマ・ユリ根などの産物がある。ジェームスタウンは、島のたった一つの町で行政の中心地である。〔大崎 晃〕

セントポーリア [Saintpaulia] 双子葉植物・イワタバコ科。アフリカスミレともいい、東アフリカの森林の樹陰に自生する多年草。はち植えとして温室で栽培される。短い地下茎から多数の葉が根出し、ロゼット^{*}状になる。葉は5～8cmの葉柄をもち、広卵形で長さ5～8cm、両面に短毛がある。ふつう夏から秋にかけて4～6花が総状花房に6cm前後の柄の先につく。花は径2～4cmの漏斗状で、スミレに似る。近年アメリカで改良が進み、種々の品種が作出された。花色は最初単純な青色であったが、白・桃・赤・紫などの色ができ、さらに一重から半八重・八重のものまで現われた。繁殖は葉柄をつけて葉差しすれば、容易に発根する。生育適温は20℃で、直射光線を避けて、多湿に保つ。用土はバーミキュライト(ヒル石^{*})と砂を等量に混ぜたものがよい。〔小杉 清〕

セントポール [Saint Paul] アメリカ合衆国中北部、ミネソタ州の州都で、ミネアポリスに次ぐ州第2の都市。人口28万(1975)。州の中部東端に位置していてミシシッピ川とミネソタ川の合流点にあって、すぐ西にあるミネアポリスとは双子(ふたご)都市といわれ、両市を含む大セントポールの人口は172万1,000(1966)。ミシシッピ川通航(そうかう)の終点で、同州の工業・運輸・商業・教育の中心地。出版印刷業は合衆国第4位、化粧品製造は第5位、精油産額は中西部で第1位である。また大セントポールは電子工業の一中心にもなっている。〔梶村大彬〕

→次ページ(写真)

セント-ポールだいせいどう 【セント-ポール大聖堂】 ロンドンにあるイギリス-



セントポール ミシシッピ川に臨むセントポールの中心部。市街は美しい緑でい
ろどられ、立体交差の道路
網が流れるように走ってい
る

ルネサンスを代表するイギリス国教会の聖堂。レンの建築になるもので、1675～1710年に建立（（んりゅう））された。2段になった正面ファサード西側の二つの塔、地上約98mの大きなドームをもつ堂々たる外形である。寺院の地下は、レン自身やウェリントン^{*}、ネルソン^{*}をはじめとするイギリス歴代の要人の墓所となっている。

セントルイス [Saint Louis, St. Louis] アメリカ合衆国、ミズーリ州東縁のイリノイ州境にある商工業都市。人口52万5,000、大セントルイス236万3,000(1975)で同州最大の都市。ミシシッピ川とミズーリ川の合流点に位置し、かつて河港として栄え、現在も合衆国中央部の交通の中心地である。西部への入り口で毛皮取引の中心として発展し、農業地域を背景として穀物・綿花・羊毛・木材・家畜・タバコ・毛皮の取引が盛んである。主要工業は鉄鋼業を中心に食肉加工・はきもの・薬品・金物・製粉業などで、自動車組み立て工業はデトロイトに次ぎ合衆国第2位。1832年創立のセントルイス大学と1853年創立のワシントン大学の二つの総合大学、神学・内科・外科・薬学の単科大学があり、中でも外科大学は有名な付属病院をもつ。市は1674年にフランスによって建設され、フランス国王ルイ9世にちなんで名づけられた。 [梶村大彬]

セントルシア⇒ウィンドワード(諸島)

セントレックス [centrex] 一つのビル内に自動交換機を設け、これに1企業または数企業の500個以上の本電話機を接続し、自動的に内部の相互通話や外部との直接発信通話ができるようにした電話。集団電話の一種で電電公社が設計・設備し、大企業または企業集団におけるビジネス用に使われる。交換手を経由せず、社外からの着信がビル内個々の電話機で受けられるダイヤルイン、0プラス相手番号を回して社外に直接発信できるダイヤルアウト、度数を要しない社内相互通話などが可能であり、その他自動転送・集中応答・不在通知・会議電話・短縮ダイヤルや市外への発信規制、社内案内その他の機能を設備する



セントポール大聖堂



セントローレンス川 モントリオール市北東部の工業地区付近を流れるセントローレンス川。埠頭には船が接岸し、カナダにおける輸送の大動脈となっている



センナ (左)モクセンナ (右)ハナセンナ

こともできる。日本では1967年(昭和42)集合自動電話の名称で試行され、従来のPBXにないすぐれた性能が多いことやビルの大形化・過密化などで需要は急増している。

セントローレンス(川) [Saint Lawrence] 北アメリカ東部の川。上流はカナダとアメリカ合衆国の国境をなす。オンタリオ湖の東端からセントローレンス湾に注ぎ、その間の長さ約1,190km。川幅はケベック付近で10km、河口付近では150kmある。セントローレンス海路の完成によって五大湖と大西洋とを結ぶ重要な交通路となり、大形船が航行できる。流域はカナダでも最も重要な産業地帯をなし、カナダの人口の半数以上がオンタリオ湖北岸を含めたこの地域に集中している。 [大石堪山]

セントローレンス(海路) [Saint Lawrence] 北アメリカ東部、セントローレンス川のオンタリオ湖北東岸にあるカナダのキングストンから、下流のモントリオールまでの水路。全長約300km。セントローレンス川の流路を航行ができるように運河として造営したもので、1954年、カナダとアメリカ合衆国の共同事業で進められ、1959年4月に完成した。七つの閘門(こうもん)によって途中の急流を克服し、大西洋から五大湖まで1万トン級の船舶の航行が可能になった。 [大石堪山]

センナ [senna] 双子葉植物・マメ科。暖帯から熱帯に約500種分布しているカラケツメイ属のうち、木本種のいくつかをいう。モクセンナは西インド原産の高木で、高さ10～15cm。葉は偶数羽状複葉で長さ18～20cm。小葉は8～10対あり、楕円(だえん)形で下面は灰白色。8～9月、枝の上部の葉腋(ようえき)に、12～15cmの花梗(かこう)を出す。花は直径2cmの黄色五弁花で平開し、他のマメ科植物と異なる。豆果は長さ12～15cmで、10～12個の種子がはいる。ハナセンナはアフリカ原産の高さ1～4mの落葉低木で、多数枝分かれし、緑色で軟毛がある。葉は偶数羽状複葉で8～14対の小葉からなる。小葉は長楕円形で長さ6～18cm。8～11月、枝の上部の葉腋に黄色五弁花を総状につける。葉や花にクリソファン酸を含み、峻下剤(しゅんげざい)として用いられることがある。チンネベリーセンナはアラビアからインドに分布する常緑小高木で、高さ4mに達する。葉は偶数羽状複葉で5～7対の小葉からなる。小葉は長さ2～5cm、幅0.6～1.5cmの披針(ひしん)形で全縁、下面に少毛がある。花は大形の黄色五弁花で、数個が穂状につく。果実は暗かっ色で、わずかに湾曲し、8～9個の平たい倒卵形の種子を入れる。アレキサンドリアセンナはアフリカ東部からアラビアに分布する高さ1mほどの小低木で、枝が長い。葉は偶数羽状複葉で、4～6対の小葉からなる。小葉は長さ1.5～3cm、幅0.5～1cm。6～7月、前種よりも小さい黄色花をつける。果実は

長さ4.5cmほどの平たい球形で、6個の種子がある。チンネベリーセンナとアレキサンドリアセンナの小葉を局方ではセンナといい、センノシド・クリソファン酸・アロエエモジン・レインを含み下剤に用いられる。

〔加藤傳重〕

ぜんな 【善阿】 連歌師。生没年未詳。鎌倉末期に流行した花下連歌(はなもとれんか)(寺院の桜花の下の連歌会を主導したところからいう)の宗匠。《連歌本式》の編者とも推定されている。二条良基(よしもと)の《筑波(つくば)問答》にく善阿といひし者、ならびなき上手(じょうず)にて、門弟ども今に此の道の堪能にて侍(べ)る」とあるように、良基の協力者であった救済(きうさい)をはじめ、十仏・順覚・信照ら有力な地下派(じげは)連歌師を育てた。《菟玖波集(つくばしゅう)》に33句が収められている。

〔奥野純一〕

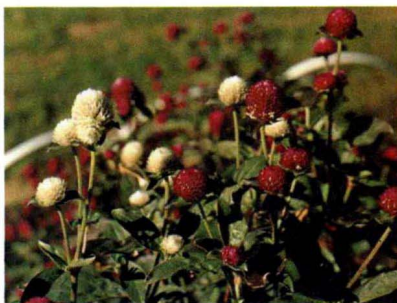
センナケリブ 【Sennacherib】 (? ~ BC681) アッシリア王。在位BC705~BC681年。サルゴン2世の子で後継者。即位とともに国内の大反乱にあい、これを平定したのち、バビロニア・エラムを従えた。BC701年以後はパレスチナ・フェニキアに軍を向け、シドン・アルワドなどを征服したが、疫病のためエルサレム攻略には失敗した。BC691年からBC689年にかけて反乱を起こしたバビロン市を攻略し、これを徹底的に破壊した。以後ニネベを首都にふさわしい都市とすることに専念した。

〔星鎮亮〕

せんなりほおずき 【千成酸漿・苦蕒】 双子葉植物・ナス科。熱帯アメリカ原産の一年草で、帰化植物の一。茎の高さ30~40cmでよく分枝する。葉は長さ3~7cmの広卵形で先はとがる。8~10月、葉腋(ようえき)に1個ずつ緑白色の五弁花をつける。果実は直径1cmの球形、長さ2.5cmほどの小さな卵形のがく片に包まれる。熟しても紅変せず、緑色のままである。

せんなん 【泉南(市)】 大阪府南西部の市。人口53,000。江戸時代の錦(にしき)の伝統を受け継いだ紡織工業が盛んで、明治以後はれんが製造などの窯業も興った。1970年(昭和45)7月市制施行。市域は大阪湾岸の平野部から和歌山県境を走る和泉(いずみ)山脈北斜面へかけてほぼ南北に広がる。産業三大別人口比は7:50:43。平野部には溜池(ためいけ)が広く分布し、米・麦のほか泉州タマネギの特産がある。紡織工業は紋羽(もんは)の製造技術によるたびの裏地・厚司地の生産を主とし、全国の約70%を生産する。窯業は最近では石綿工業に転換しつつある。海岸線を南海電鉄南海線・国道26号線が平行して走り、その東方に阪和線が通じる。

せんにしちこう 【千日紅】 双子葉植物・ヒユ科。センニチソウともいう。庭に栽培される一年草。茎の高さ30~40cmで、よく分枝する。葉は対生し、長楕円(だえん)形で長さ3~10cm。8~10月、紅色まれに白色の



センニチコウ

小さな包をもつ小花を頭状につける。がく片は5枚で、上面に毛が密生する。おしべは5本が癒合(ゆうごう)している。めしべは1本。和名は花がいつまでも色を失わないことによる。

ぜんにしじろう 【全日自労】 ⇨全日本自由労働組合

ぜんにちのう 【全日農】 ⇨全日本農業組合連合会

せんにしちまえ 【千日前】 大阪市南区にある大阪の代表的歓楽街。戎橋筋(えびすばしり)の東を南北に並行して走り、北は道頓堀(どうとんぼり)とT字形に交わり、南は金刀比羅(ことわら)神社に至る約600mの通りで、もと法善寺境内の一部にあたり、この寺は千日念仏の回向(えこう)が行なわれたため、千日寺ともよばれ、地名はこれにちなむ。江戸時代には市街地の南端にあたり、刑場や墓地や火葬場のある寂しい所だったが、1871年(明治4)墓地の移転に伴って土地が整理・開発され、一転して劇場・映画館・飲食店の立ち並ぶ娯楽街に発展した。〈食い倒れ〉の大阪を代表する法善寺横町の飲食店街は特に名高く、水かけ不動には芸人や水商売の人の参詣客(さんけいきやく)が多い。

〔浅井得一〕

ぜんにほんかいいんくみあい 【全日本海員組合】 1945年(昭和20)10月結成された船舶乗務員の職業別単一組合。全国繊維産業労働組合同盟とともに全日本労働総同盟の中心メンバーであり、国際自由労働組合連盟に加盟。組合員15万4,000(1977)。

ぜんにほんがくせいじちかいそうれんこう 【全日本学生自治会総連合】 ⇨学生運動

ぜんにほんかんこうしよくいんろうどうくみあいきょうぎかい 【全日本官公職員労働組合協議会】 略称全官公。1959年(昭和34)全日本労働総同盟(同盟)系の指導のもとに結成。日本労働組合総評議会(総評)傘下(さんか)の公務員労組の共同闘争会議に対抗する。現在国鉄・郵政・国税・電気通信・国有林・社会保険支払基金など6組合13万人の同盟加盟を含む約19万人の組合員をもつ。

ぜんにほんくうゆ 【全日本空輸(株)】 略称は全日空。国内幹線中心の航空会社。日本航空が国家援助を受けているのに対し、全日本空輸は純民間資本による自主独立経

営が特色。ヘリコプター事業ではトップにある。1952年(昭和27)日本ヘリコプター輸送(株)として発足、1958年極東航空と合併、全日本空輸となる。その後、藤田航空を合併(1963)、中日本航空(1965)と長崎航空(1967)両社の定期航空部門を統合し、さらに1970年から国際線への進出が許可されて、日本航空と国内を2分する航空会社に発展した。なお、NHK・朝日新聞・共同通信などと年間契約を結んで報道取材に活躍し、また空からの農業散布も行なっている。本社、東京。営業所は東京・羽田・札幌・大阪・伊丹(いたみ)・福岡。資本金427億7,900万円、年間営業収入3,078億6,500万円、従業員数10,924(1980年9月)。

ぜんにほんさんぎょうべつろうどうくみあいかいぎ 【全日本産業別労働組合会議】 略称は産別会議・産別。1946年(昭和21)21の産業別労働組合(163万)を結集して組織され、第2次世界大戦後の労働戦線を日本労働組合総同盟と二分した。傘下(さんか)には戦闘的な労働組合が数多く参加し、組合による生産管理など政治的色彩の強い闘争を展開した。しかし翌年の2・1スト*以後、組合内部の批判勢力が反共ののろしをあげ、1948年民主化同盟を結成したが、以来脱退があいつぎ、1958年解散。〔本元錦哉〕

ぜんにほんじゅうろうどうくみあい 【全日本自由労働組合】 略称は全日自労。1947年(昭和22)6月に結成された日雇労働者の全国組織。組合員8万5,000人。世界労働組合連盟に加盟している。

ぜんにほんのうみんくみあいれんこうかい 【全日本農民組合連合会】 農民の経済的要求の実現を中心とした反独占農民闘争を進めている大衆団体で、労働組合に対照される農民の階級的組織。結成は1958年(昭和33)3月24日。それまで分裂していた農民組合の統一・合同体として誕生した。組織対象は、専業下層と兼業上層を中心に全農民としており、組合員は30,000人。

日本で全国的な農民組合がつくられたのは、1922年(大正11)で、日本農民組合が結成されている。当時の農民組合は、地主に対して団結し、耕作条件の維持・改善、耕作権の確立などに目的を置いた小作農民を中心とした組織であった。1925年当時は組合員50,000名を数え、さらに単独組合を加えると30万名の農民が組織されていた。しかし、指導者間の方針上・思想上の対立や政党の介入もあって、1925年に分裂。以来、1931年に全国農民組合と日本農民組合に整理・統合されるまでの間、組織的指導を欠く状態にさえ陥り離合集散を続けた。第2次世界大戦後、1946年に統一体としての日本農民組合が結成され、農地改革を推進、最盛期には130万名の組合員を擁した。しかし、政党間の方針の違いや派閥争いが組合内に持ち込まれ、1947年には最右派が脱退、反共を旗印の一つとした全国農民組合を結成

したのに続き、1949年には、日本社会党左派系を中心とした主体性派と日本共産党・労働者農民党系の統一派に分裂した。その後労働者農民党系が主体性派に合同したが、1951年の日本社会党の分裂に伴い、主体性派から右派社会党系が分裂して日農新農村建設派を結成、他方統一派内でも離脱があって、農民戦線は四分五裂となった。これらの分裂は、内外独占資本主義や農地改革と残存封建勢力の評価と農民闘争・農民組織方針上の対立によるものとされているが、大衆団体に対する政党の介入と、農地改革後の反独占農民闘争展開へのたちおくれに深いかかわりがあったのである。

その後、反独占農民闘争を旗印に、1957年に日農主体性派と統一派が合同、日本農民組合全国連合会を結成、翌1958年3月に同連合会と全農・日農新農村建設派が合同、全日本農民組合連合会を結成した。この統一・合同にあたっては、政党の組合介入の排除、政党支持の自由が確認された。しかし、1960年民主社会党の結成に伴って、その系列が離脱し、同年8月に全国農民同盟を結成した。〔谷本たかし〕

せんにはんろうどうくみあいかいぎ 【全日本労働組合会議】略称は全労会議・全労。日本労働組合総評議会(総評)の提唱した平和4原則(全面講和・中立堅持・軍事基地反対・再軍備反対)、およびその政治・経済闘争の方針をめぐって、かねてから対立していた全日本海員組合・全国繊維産業労働組合同盟(全繊同盟)などが総評を脱退して1954年(昭和29)結成。反共・労使協調主義を旗印とした。1962年日本労働総同盟(総同盟)・全日本官公職員労働組合協議会(全官公)とともに全日本労働総同盟組合会議(同盟会議)を結成したが、1964年全日本労働総同盟(同盟)結成に参加して発展的に解散。〔木元美代子〕

せんにはんろうどうそうどうめい 【全日本労働総同盟】

①略称は全総。1936年(昭和11)1月、全国労働組合同盟と日本労働総同盟とが合同してつくった社会民主主義系の連合会。1940年7月解散。

②略称は同盟。第2次世界大戦後の1964年11月、右派系単産組合を集めて結成された連合体で、全労・総同盟・全官公の3団体で構成する全日本労働総同盟組合会議(同盟会議)の発展したもの。加盟人員は当時146万。生産性向上に協力し、民主社会党支持、日韓(にっかん)条約賛成を方針としている。1977年現在加盟人員221万。〔安達淑子〕

せんにゅう 【仙人】 鳥類・ヒタキ科・ウグイス亜科のロクステラ属の総称。川辺の草むらや灌木(かんぼく)林・アシ原・乾草原・ササ原などに生息し、茂みに潜入していることが多く、あまり姿を見せない。しかし、草むらから飛びたつてさえずり、また草むらにはいる習性をもつものもある。こん虫



センニユウ マキノセンニユウ

食。一般に下面は灰白・黄かっ色、上面は黄かっ色で、濃色の縦斑(じゅうはん)のあるものもある。草の茎に止まるので、脚は長めで強い。わが国にはエゾセンニユウ・シマセンニユウ・シベリアセンニユウ・マキノセンニユウの4種が夏鳥として渡来する。

〔安部直哉〕

せんにゅうかん 【先入観】人や事物に対して、実際の経験に先だってもってしまう誤った態度や考え。その後、訂正する機会があっても、はじめにもった見方を容易に変えることができない。また、このような現象が、個人のもつ態度として合理化され、情緒的・感情的レベルで固定化された場合に偏見とよばれる。明確な根拠がないにもかかわらず、ある人種に対して非好意的な態度を示すなどは、その例。

せんにゅうじ 【泉涌寺】京都市東山区今熊野泉山町にある真言宗泉涌寺派の寺。平安時代のはじめ左大臣藤原緒嗣(おつぐ)の山荘の地に建てられた法輪寺(のちに仙遊(せんゆう)寺と号した)が前身、鎌倉時代1225年(嘉禄1)後仍(しゅんじょう)国師を開山に創建された。当初は律・天台・真言・禅の4宗兼学の寺で、宋(そう)から帰国後まのない国師は、宋の伽藍(からん)を模して建て、現在の建築は江戸時代の再建であるが、創建当時のおもかげを伝えている。舍利殿の韋駄天(いだてん)像、観音堂の楊貴妃(ようき)の観音像は国師の法弟湛海(たんかい)が入宋(にっそう)して持ち帰ったもの。寺域には後水尾(みずのお)天皇をはじめとする天皇・皇后・皇族の陵墓が多く、御陵寺としても知られている。〔永井信一〕

せんじん 【仙人】超現実的な秘術を使い、不老長生することのできる人間。特に老荘思想の影響を受けて、人間存在の真実を追究し、人間の完全な姿を発見して世に示そうと努めた中国の魏晉(けいじん)南北朝時代の人々に、理想的な人間像とされた。仙人は修養によってのみなりうるものであり、そのためには名山に住んで穀食を避け、独自の養生法・呼吸法などを修得し、金丹・玉などの仙薬をつかってそれを服用し、宇宙の真理を悟る必要があるという。仙人の種類には普通天仙・地仙・尸解仙(しかいせん)の3種と玉女があげられる。晋の葛洪(かくこう)の《抱朴子(ほうぼくし)》が仙人の世界あるい

は神仙思想を最もよく描いている。

〔勝村哲也〕

せんにとうげ 【仙人峠】岩手県釜石(かまいし)市と遠野市の境にある峠。標高887m。北上山地南部で、北上川支流の猿ヶ石(さるが)川上流と太平洋側とを分けるところにあり、古くから交通の難所であった。釜石と花巻を結ぶ釜石線は峠の南を土倉トンネルで越え、道路は峠の北を迂回(うかい)し、仙人トンネル(長さ2,500m)の有料道路で越えている。

せんになぶり 【千人針】戦場に出かける出征兵の護身用の呪術(じゅじゅつ)的なお守りで、多くはもめんの腹巻きとして身につけた。家族や知人が千人の女性から布に1針ずつ赤糸で結びをつくらうので、千結び・千人結びともよばれた。日清(にっしん)戦争当時すでに一部で行なわれていたが、第2次世界大戦当時は全国的な流行となった。布の色も白・黄色の2種があり、また〈死線を越え苦戦を免れる〉といった縁起かつぎの語呂(ご)合わせから、5銭・10銭の穴あき硬貨を縫いつけたり〈トラは千里行って千里帰る〉といわれる故事から、寅(とら)年生まれの女性だけを捜してその歳の数だけ縫ってもらう風もあった。あらかじめ墨で点を千個つけた布を用意しておいて、それに1針ずつただ縫ってもらうことが流行してから千人針というようになった。またもとはただ四角い布を懐中するものだったのが、のちに腹巻用になり、さらに男性千人に力という文字を書いてもらって千人力を身につけるといった形式が行なわれたのは第2次世界大戦からの新しいふうであった。〔今野眞助〕

せんねつ 【潜熱】物質の状態変化に費やされる熱量。水は1気圧のもとは100℃で沸騰するが、沸騰している水をさらに熱しても温度はそれ以上のばらず、水がどんどん水蒸気になっていく。このとき、水に加えられた熱量は、温度の上昇という効果を生まず、水を水蒸気に変えるのに費やされる。液体が気化して気体になるときの潜熱を気化熱、固体が融解して液体になるときの潜熱を融解熱、固体が昇華して気体になるときの潜熱を昇華熱という。これらの逆の変化においては潜熱に相当する熱量が放出される。たとえば、気体が液化するときには気化熱に等しい熱量が放出される。〔中野藤生〕

せんねつ 【腺熱】ウイルス性全身感染症で、伝染性単核症ともいう。病原ウイルスはまだはっきりしていない。潜伏期は約11日で、春に多く、年長児に多い。症状は全身倦怠感(けんたいかん)・発熱・咽頭痛(いんとうつ)が主訴で、そのほかリンパ腺(せん)腫脹(しゅちやう)・脾腫(ひしゅ)・発疹(はっしん)や軽度の黄疸(おうだん)などをみることもあり、また、頭痛・項部硬直・意識障害などを伴うものもある。熱は1〜3週間続き、朝は低温のことが多